

赤城山麓のサクラソウ自生地で観察された サクラソウの訪花昆虫

磯田 洋二

赤城山の南側には、関東平野に向かってなだらかな麓が広がっています。その麓からは幾筋もの清流が利根川の支流となって流れ出しています。そんな支流の一つである鍋木川の上流にはサクラソウの自生地が点々とあって、その中に、新里村指定天然記念物の「サクラソウ」や、群馬県指定天然記念物の「新里のサクラソウ群落」があります。鍋木川が村の中央を流れている新里村では、サクラソウを「村の花」に指定して、流域のサクラソウ群落の保護に大変な努力を払っています。

ある時、新里村の職員が「田島ヶ原サクラソウ自生地」の見学に訪れて、保護の現状や問題点についていろいろな質問をして帰りました。その折に、「新里のサクラソウ群落」は雑木林に囲まれた谷間にあり、自然に囲まれたよい環境にあることを教えてくれました。

その当時は、どんな昆虫がサクラソウの花にきて蜜を吸うのか調べているところでした。「田島ヶ原サクラソウ自生地」で調べたところでは、観察できた昆虫の種類は非常に多かったのですが、サクラソウの花に蜜を吸いにきたのはチョウの仲間のみで、それも、たまたま観察できただけで、キタテハはたくさんいたので、もっと多く観察できてよさそうです。また、昆虫の種類も多いので、もっといろいろな昆虫がサクラソウの花を訪れてよさそうです。ほかの自生地ではどうなっているのだろうかと思っていた所でしたから、さっそく「新里のサクラソウ群落」を尋ねて調べてみることにしました。そこで、浦和市社会教育課文化財保護係（現在は文化財保護課）の方をお願いして、新里村役場から調査を許可してもらったり、サクラソウの満開になる日を教えてもらい、当日は一緒に行って調査を手伝っていただきました。

1989年5月9日にその願いは果たされました。その日は一日中晴れて風のない穏やかな日になって、昆虫の調査には絶好でした。新里役場から案内されてたどり着いたとき、「新里のサクラソウ群落」は今が盛りと咲きほこり、谷間は薄紅色に明るく染まって見えました。谷間は東側と西側を急な斜面に挟まれて、南に開いて北に長くのびていました。東側の斜面は40mほどの高さの尾根筋までクリーコナラ林が続き、西側の斜面は20mほどの高さで、そこにはクリーコナラ林が茂っていましたが、その先は平らになって道路が通り、農家が点在する畑地になっていました。谷間には西側の斜面に沿って幅が1.5mほどの谷川が流れ、谷川と東側の斜面との間が平地になっていて、そこにサクラソウの群落が発達していました。この平地はおよそ標高470mのところであって、谷川に沿った長さは約60m、幅は広い所で約30m、面積は1500m²ほどになります。聞いた所では、

この平地は時々谷川が増水して土地を削るので、アズマネザサが繁る藪地のままになっていました。そこで、谷川から離れた場所をスギの植林地にしたところ、それまで谷川の縁に点々と生えていたサクラソウが、藪を刈り払った後に生えてきて繁殖するようになったといえます。

たしかに周りの自然は豊かです。自然に変化があって、いろいろな昆虫がたくさんいます。ここなら、たくさんの昆虫がサクラソウの蜜を求めて集まってくるだろうと思えました。サクラソウの蜜を吸いにきた昆虫の種類、蜜を吸いにきた時刻、蜜を吸うために滞在していた時間、滞在していた間に蜜を吸った花の数と群落の数、蜜を吸う時の行動など、いろいろなことが調べられると思うだけで胸がわくわくしてきました。

調査は午前10時に始めました。まず、大きなサクラソウ群落の中に1メートル四方の観察用の枠を設けて、そこに入ってくる昆虫を調べることにしました。次々に昆虫がやってくると調べきれなくなるので、一人で受け持つ枠を2個にしたのですが、その心配は無用でした。1時間ほど見張っていたのですが、枠の中だけではなく、その周りにも昆虫はやってこないのです。そこで、午前11時頃には観察用の枠を5メートル四方に広げて、見張ることにしました。正午になり弁当をとりながらも見張りを続けましたが、とき折りキアゲハ・クロアゲハ・スジグロシロチョウ・キタテハが近くを飛ぶのを見掛けただけで、サクラソウの花の蜜を吸いに集まる昆虫を観察することはできませんでした。もしかしたら、私たちが見張っていない場所で昆虫がサクラソウの花から蜜を吸っているのかもしれませんが。調査の方法を変えて、サクラソウ群落の見られる全域を歩いて調べることにしました。しかし、午後1時近くまで、全域を数回まわりましたが、結果は同じでした。

このような状態が続いたので、サクラソウの花にやってくる昆虫との出会いをあきらめかけたその時です。先ほどまで見張っていた枠の中に、まるで落ち葉が飛んできたように、ふわふわとサクラソウの花に止まったチョウがいます。近付くと1頭のテングチョウが伸ばした吻を花筒に差し込んで、じっとしてはいませんか。あわててカメラを取りに戻ろうとしたとたん、すうっと飛び立って2メートルほど先のサクラソウの花に、さらに飛び立って1メートルほど先のサクラソウの花に止まり、すぐに飛び去ってしまいました。一瞬の出来事でしたが、サクラソウの花の蜜を求めてやってきたテングチョウとの出会いに大いに気をよくしました。それからは、再びテングチョウが戻ってくるのではないかと、あちらこちらと見渡しながら過ごしたのですが、二度と現れませんでした。